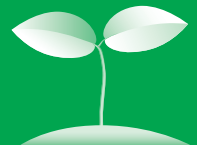


育てよう

鏡野のよい子シリーズ



「Enjoy Difference, Enjoy Diversity」

～違いや多様性を愉しむ～

一昨年の冬、私は先進校視察のため東京のある公立中学校を訪問した。この中学校は校則が廃止され、「礼儀を大切に」「出合いを大切に」「自分を大切に」という三つの心得があるだけだ。(もちろん法律や条令は厳守されている。)規定の制服はあるが着用は自由であり、私服でもOK。ついでにピアスも茶髪も自由。また、校内へのスマホやタブレットの持ち込みや使用も本人次第。授業の板書をノートにとる代わりに撮影する生徒もいる。当然授業は時間通りであるが、出たくない場合は出席しなくても良い。そのような場合は、職員室前廊下の机で自習をしたり、ハンモックで休んだり、備え付けのコンピュータを使用したりしている。このように書く「何でもありの学校」と感じられるかもしれない。しかし、そうではない。

この学校に九年間勤務される校長先生にお話を伺うと、今まで取り組んできたことは「へんな校則をなくす」「学力をつける」そして「多様性の推進」。ルールはできるだけ少なく、ルールを守ることから自分で判断できる力の育成。また、ユニバーサルデザインの授業の推進と、CLIL(クリル)「内容言語統合型授業」:例えば、英語で数学や体育、調理実習を行う授業など)の実践。そして「みんな違っていい」から「みんな違った方がいい」という価値観の醸成。このように、学校は戦略を練り、生徒に仕掛けている。

また、先生も黙って生徒を見ているのではない。声をかけるタイミングを見計らっているのだ。「ござ」という時には生徒に授業参加を促している。そのやりとりを見ても、お互いに良好な関係を構築しているように感じた。

実際、生徒たちはとても明るく気さくで、ありのままの自分で生活しているようだ。私のような訪問者にも気軽に挨拶をしてくれたが、英語や数学などの授業参観をしたが、ほとんどの生徒は授業に真剣に意欲的に参加していた。中には私語で注意を受けるものもあるが、先生の話によく反応していた。音楽の授業では、部外者が急に入ってきて、臆面もなく大きな口を開けて生懸命歌唱している姿はとても印象的だった。とにかくどの授業でも生徒たちが主体的に積極的に参加していることは共通していた。

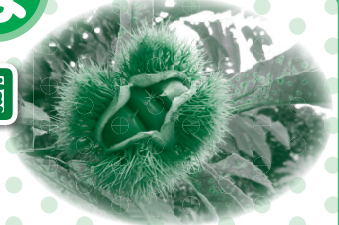
たまたま校長室に談笑しに来た生徒たちから話が聞けた。「この学校の良いところは、自由です。自由だからこそ考えることがあります。また、いろんな生徒を受け入れてくれるところです。」「自由だと責任をとることが分かる。」「いろいろのことを言っても、周りからとかく言われぬ。」「自由だからこそ学生生活をきちんとしたい。」等。このように、生徒自身がそれぞれの立場や環境を踏まえて思考し、自由と責任を意識していることには非常に感心した。

「違い」や「多様性」の尊重と言うが、実際は何かにつけて「型」にはめるだけになっている自分自身。中学生たちに気づかされる視察であった。

鏡野町生徒指導推進連絡協議会
鏡野中学校 鹿島 康裕

のびのびひろば

自然いっぱい♪ 郷幼稚園



今、郷幼稚園のまわりは、秋の自然でいっぱい!

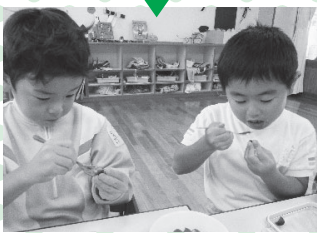
園庭でどんぐりや栗拾いをしたり、ヤマゴボウの実をつぶしてぶどうジュースを作ったりと自然を生かした遊びを楽しんでいます。自分たちで拾った栗をゆでて食べるのは、格別の美味しさです!

芋ほりでは、びっくりするほど大きなサツマイモがたくさん収穫でき、焼き芋をしてみんなで食べるのを楽しみにしています。次はとった柿をむいて、干し柿づくりに挑戦する予定です。

栗がいっぱいとれたよ



ゆで栗、おいしい



おいしいぶどうジュース つくるよ♪



お芋でっか〜い

